



2020・2021年度
 RID2680 RYLA小委員会
 委員長 田中 賢一

集い 準備する

2020年3月、新型コロナ感染が世界的に拡散してから、半年が経ちました。我々の生活には新たな制限や不安、困難が日々生まれています。余島RYLAも昨年度は開催中止となり、学友会の理事会や総会も

2020・2021年度
 RID2680 RYLA学友会
 会長 阪本 龍太郎



オンライン開催を余儀なくされています。そして、未だなお、新型コロナウイルスとの関わりに明確な方針すら世界は見出していない状態が続いています。

一方、人類の大混乱をよそに、山は滴り、何事もなく季節は移ろいを見せています。庭に寄る猫達もコロナどこ吹く風でセミを追い回し、木陰で涼をとり、右往左往する人間を横目に、なに食わぬ顔で日々を満喫しているようです。

そもそも新型コロナウイルスとはなんなのか？新ウイルスも我々人類と同じく地球が生み出した生命体、そして人類だけに大きな影響を及ぼす生命体です。同じ地球の子としてみると、この新ウイルスは何かのメッセージを人類に伝えるために生まれた。と思ってしまう。

新型コロナウイルスがこの世に起こした現実、それは、人間の自由の制限、“当たり前前”の再定義、本当に大切なも

の、必要なものの選別、大気汚染の急減。この生命体は我々に一体、何を促しているのでしょうか？

余島RYLA創始者、今井鎮雄先生は、第34回余島RYLAでこう私たちに問いかけました、“新しい世界、それは今までは全く違った世界です。〴〵考え方も社会の構造も何もかも今とは全然違っていく。将来の世界のあり方を今から読んで、新たな世界を豊かなものにするためには、今何を準備すればいいのか？それを見極めるためにはそうとうな努力と苦勞をしなければならなりません。” 今、この激動の時、RYLAという共通の体験を通じて同志となつた我々は何のために、どのような準備をしなければならないのか？肉体による集いが叶わぬ時代であろうと、我々は“人と出会い 神と交わり 愛の火の 燃えるところ”を精神に授けられています。いまこそ集い、準備する時です。

本年度もRYLA小委員長を務めます田中賢一です。よろしくお願いいたします。昨年度は、COVID-19の影響によりRYLAセミナーが開催できませんでした。本年度も開催できるかどうか予断を許しませんが、開催に向けての準備をしています。COVID-19の影響によりプログラムやセミナーの実施方法も変更せざるをえないと思います。今井先生、深川先生が築かれたRYLAセミナーの本質を変えることなく、新しいRYLAをみんなで作っていききたいと思いま



先生の背中

今井先生や深川先生のご活躍や思いを寄稿いただき、お伝えしていきます。



1959年、伊勢湾台風が発生、愛知県、三重県での死者・行方不明者の数は5,000人を超え、明治以降の日本における台風の災害史上最悪の惨事と言われている。名古屋の下町は水浸しになり、被災者は救助隊とボランティアの人々による復旧と救援の作業を待

修了生の今



第41回RYLA受講生の田中悠莉子です。RYLAを受講後、神戸須磨ローターアクトクラブに所属し活動しています。今までに経験したことのないことを沢山でき、とても刺激的な日々を過ごしています。

最近、須磨のグッズを作ろう



【写真】須磨海岸にて。須磨RAC SUP例会

伊勢湾台風での今井鎮雄先生の活動

RYLA広報委員 坂西卓郎

つていた。当時、神戸YMCAの総主事だった今井鎮雄先生は、知多半島のはずれの漁村までトラックを走らせ、借りてきた小舟に衣料品や食糧品を積み、すでに軒先まで水が達している家々の屋根から屋根へ配って歩かれたそう。

共に参加していたPHD運動提唱者の岩村昇医師は「私は大変なことを学んだ。今井先生の在り方こそが自分が目指していた医師のあり方ではないか。病院で患者が来るのを待っているのではなく、困っている、苦しんでいる患者の元に自ら出かけて行って治療することこそ、自分の役割だ」と感じたという。

この出会いが1981年の「第一回ロータリー国際理解と平和賞」受賞につながり、国際協力NGO、PHD協会設立に至る。

【写真】現地の仮設YMCA本部前にて。右が今井先生